

難波田城だより

—難波田城公園・難波田城資料館ニュース—

平成 24 年 1 2 月 1 日発行
編集・発行/富士見市立難波田城資料館
第 5 4 号
NEWS from NANBATAJO

こくぐら 穀蔵展示「昔の結婚式」によせて

市民学芸員 小森 和雄

今年も穀蔵展が始まりました。穀蔵展は、面積は小さいが生活にちなんだ展示です。自分の歴史と重なることが多く、私は好んでガイドに加えています。振り返れば、去年は『夏を涼しく冬を暖かく』（実家のストーブなどを寄贈）、一昨年は『養蚕の道具』（私は養蚕経験者）、平成 21 年は『昔のラジオ』（私は電気少年）でした。これらの展示物の中には、我が家からの寄贈品もあります。

今回の展示物の一つである「箱枕(ハコマクラ)(安土枕の舟底タイプ・箱は漆塗り)」は、昭和 15 年に結婚した母が嫁入り直後に使用したものです。現在 95 歳の母によれば「使用したのは僅か一ヶ月。硬いので、髪型も変え直ぐに止めてしまった」とのことです。同時に寄贈した日常用の箱枕は、祖母が我が家へ来たとき、昭和 30 年代まで使用していたものです。箱は桐の白木製、枕部分はスポンジ製と、花嫁用と比べるとかなり格差があります。箱枕の日常的な使用は明治生まれまで。洋風髪型の一般化と共に廃れたようです。



【花嫁用安土枕(舟底枕)・展示中】

両親は近江商人の町(滋賀県蒲生郡日野町)で生れ、父は埼玉県にあるお店(酒造業)に勤めていました。母は日野に住む別のお店のオーナー宅へ奥女中として勤めていました。私の父は 7 人兄弟の 6 番目です。結婚式は祖父からの電報「ヨメキマッタ、スグカエレ」で帰宅。自宅の 8 畳 2 間を使用して行われました。昔の結婚は「仲人口」が一般的で、

家と家との結びつきであり、親が決めました。両親が初めて顔を合わせたのは、結婚式当日。同居は一ヶ月だけ。日野商人のしきたりで父は埼玉、母は滋賀と別居生活でした。

当公園内の旧大澤家住宅には女中部屋があります。大澤家の女中は人気があり、志願者が多かったと聞いています。仲人口では、何処で修業(奉公)したかが、重視されたからです。私の両親の例をも紹介しながらガイドをしています。



【祖母使用の安土枕(舟底枕)】

両親が結婚式を行なった 8 畳 2 間では、昭和 24 年に私の従兄弟(父の長兄の長男)が結婚式を挙げました。その時、私は小学 1 年生でした。2 歳年上の従兄弟(父の兄の娘)と共に三々九度の杯に御酒を注ぐ役(オチョウ・メチョウ)をした思い出があります。どのような結婚式だったのかは覚えていません。続いて、別の従兄弟の結婚式でもオチョウ役を予定されていましたが、小学校の学芸会の練習で骨折し、別の人に代わってもらいました。学芸会には出られませんでした。主役の子ギツネや鉄砲打ち役などと並んで、カーキ色(国防色)の服を着て足を怪我した姿で納まっている記念写真が残っています。余談ですが、この時代、日野町ではランドセルは売っておらず、私は女のいところが戦前に使用したものを貰い受けていました。

穀蔵展を見ていると、思い出はつきません。皆さんも自分史を探してみませんか。

こんなお宝がありました 資料館編

千歯こきと足踏み脱穀機

旧金子家住宅の中に、昔使われた農機具が今も使える状態で展示されています。その中に小学生の昔体験授業、ちよこつと体験や田んぼ体験隊等のイベントで使われる脱穀の道具があります。今回はその道具の使い方や機能を紹介したいと思います。

脱穀とは、稲からモミ（皮のついたままの米）を分離する作業をいいます。江戸時代中期以前は「こきばし」が使われていました。しかし、中頃になると、はるかに性能がよい「千歯こき」（せんばこき）が発明され、明治の終わり頃まで使われました。千歯こきは、台木（だいき）に、鉄・竹の刃を櫛状（くしじょう）に並べて固定し、刃と刃のすき間に差し込んで脱穀しました。大正時代になると足踏み式脱穀機が発明され、全国で広く用いられました。この機械は昭和30年代まで使われました。この機械は、大正元年に自転車のスポークにあたったモミが、飛びちったことから考えだされたもので、これまでの脱穀作業を大きく変えるきっかけとなったものです。足で踏み板を上下させると、山型の針金がついたドラムが回転しました。そこへ稲穂をあてるとモミが落ち、千歯こきの数倍の能率をあげることができました。昭和になると動力を利用した「動力式脱穀機」を使うようになり、作業能率はいちだんと向上しました。

（村江近人）

参考：県南農業事務所ホームページ



千歯こき



足踏み脱穀機

可愛いミミズクが出来上がり、良いお土産に満足そうな親子がうれしそうに帰って行きました。

すすきが入手できれば目、耳、くちばしの材料は身近にある素材を利用して簡単に製作できるので、来年の秋のイベントに参加してぜひ試してください。

（松村利訓）



すすきミミズク作成中



完成したすすきミミズク

おもしろ・なつかし体験 ③⑧

すすきミミズクづくり

このコーナーは、難波田城公園での体験事業やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

10月14日（日）旧金子家住宅の前庭で「すすきミミズクづくり」の案内看板を出すと同時に、親子の来園者の多くが参加を希望されました。

あわててブルーシートを敷いてすすきの束を運び込み会場を作りました。

「すすきミミズク」は豊島区雑司ヶ谷の鬼子母神境内で売られているものが有名です。本体は「すすきの穂」をタコ糸で束ねただけの素朴な郷土玩具で、キビガラの目、経木の赤い耳、竹のくちばしで出来ています。

今回は、すすき以外の材料に豆や園内で調達した赤い葉を素材に使いました。

人の創った道具★人の使った道具

写真でみる40年前の富士見

富士見市市制施行40周年を記念し、秋季企画展「写真でみる40年前の富士見」を12月28日(金)まで開催しています。

昭和31年の3村合併により人口1万2千人の「富士見村」が誕生しました。その後の高度経済成長とともに人口が急増し、昭和47年の市制施行時には5万9千人を数える首都圏30kmのベッドタウンへと急変貌を遂げました。

予想を上回る人口急増に対し、村・町は上下水道や道路整備、福祉施策の充実などさまざまな行政需要への対応に追われ、とくに学

校・給食センターなど教育面の整備は財政を圧迫し、後年までその影響が及びました。また、ゴミ問題・環境問題・公害など急速な都市化の弊害も大きな問題となりました。

さまざまな課題をかかえながらも新しいまちづくりを進めていた当時の様子を紹介します。



年末の鶴瀬駅前本町通商店街
(昭和43年)

家路を急ぐ通勤者など

(昭和49年) 井上智夫氏撮影
鶴瀬駅西口が開設されるまでは、鶴瀬団地方面の人々は踏切を渡り東口へまわらなければなりません。西口開設が実現したのは、昭和55年3月のことでした。



住宅公団鶴瀬第2団地

(昭和39年)

昭和37年7月から1070世帯、4000人余が入居し、村の人口が一挙に35%増加しました。早くも38年には学校が不足し、急ぎよ鶴瀬西小学校を建設・開校しました。



このコーナーでは、当館所蔵の資料を紹介します。今では使われなくなった道具からわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

勝瀬小学校正門前の交通指導員

(昭和46年)

市内では昭和46年にはじめて交通指導員が置かれ、勝瀬小学校正門前の信号機には2名が配置されました。47年現在8名体制でしたが、児童数の増加、自動車の急増にともない人員が不足し、3名を急募しました。



東武ストアー鶴瀬店前のにぎわい

(昭和49年) 井上智夫氏撮影

鶴瀬団地入口近くにできた東武ストアー鶴瀬店は、市内大規模店舗としては2番目の進出でした。昭和48年に開店。売り場面積は3,644㎡。

その頃、向かいの玩具店に立っていた『超人バロム・1』は、昭和45年『週刊ぼくらマガジン』に連載され、同47年、毎週、日本テレビ系で放映されました。



市制施行記念式典

(昭和47年)

昭和47年4月10日、前日の雨も上がり快晴に恵まれ、午前10時から富士見台中学校体育館において式典が挙行されました。埼玉銀行寄贈の市旗の入場、国歌斉唱、市長式辞、市議会議長挨拶、功労者の表彰、祝電披露、謝辞、万歳三唱と続きました。



冬のイベント予定

●企画展情報

平成24年秋季企画展

「写真で見る40年前の富士見」

市制40周年を記念し、市内の建物や街並み、風景などのなつかしい写真を展示しています。

会期 10月20日(土)～12月28日(金)

会場 難波田城資料館特別展示室

●子ども書初め練習会

書初めの本番にそなえ、練習しましょう。書道サークルの方々による指導もあります。予約はいりませんが、午後2時までに入場してください。

日時 12月23日(祝)午前10時～午後3時

会場 難波田城資料館講座室

持ち物 書道セット、書き初め用紙

参加費 無料

協力 硯友会



●ふるさと体験「正月飾りづくり」

家の玄関に飾る、正月飾りを作ります。

日時 12月24日(振)午前の部 10時～正午
午後の部 1時半～3時半

定員 各15人(申込み順。市内在住・在勤者のみ)

参加費 1,500円(材料代)

持ち物 はさみ

申込み 12月1日(土)午前9時から直接又は電話で

指導 吉川節男氏



編集・発行/富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1 Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

富士見市役所公式ホームページ <http://www.city.fujimi.saitama.jp>

◆資料館休館日/月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土曜日・日曜日を除く)、年末年始 開館時間/午前9時～午後5時◇

公園休園日/なし 開園時間/午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)

●ちよっ蔵市 もちつき実演と販売

年末恒例の餅つきと餅の販売を行います。餅つきの体験もできます。

日時 12月23日(祝)午前11時～午後1時

会場 旧金子家住宅

主催 難波田城公園
活用推進協議会

予告 1月27日(日)

まゆだまだんご



※売り切れ次第終了です。

●かや屋根修繕

旧大澤家住宅のかや屋根の修繕を行います。

日時 平成24年12月12日(水)～

平成25年3月中旬

※古民家内の見学はできますが、住宅の周囲に足場等を設置しますので、出入りの際は気を付けてご覧ください。ご不便をおかけしますが、ご協力よろしくお願いします。

年末年始の休館のお知らせ

資料館と古民家は12月29日(土)から1月3日(木)まで休館です。公園は無休で、午前9時から午後5時まで開園しています。

<閉園時間について>

10月から3月の間、公園の閉園時間は午後5時です。資料館と古民家の閉館も午後5時です。



《花ごよみ》

- * サザンカ (12月)
- * ロウバイ (1月)
- * マンサク (2月)
- * ツバキ (2月)
- * サンシュユ (2月)